

第7回松山市総合教育会議 会議録

【開会】

【市長挨拶】

(野志市長)

- ・今年には新型コロナウイルスの影響で、国から突如要請された小中学校の臨時休業への対応をはじめ、各種行事の調整など、学校現場と教育委員会では大変な苦労があったと思う。
- ・子どもの学びを保障するため、そして子どもや保護者の思い出のために、知恵を絞り、工夫をしてもらった教職員や教育委員会の皆さんに心から感謝申し上げます。
- ・感染症による様々な制約はあるが、未来を担う子どもたちが伸び伸びと学んで健全に成長できるよう、また、松山を愛して誇りを持ってもらえるよう、あらゆる場面で皆様方と意思疎通を図りながら、松山の教育行政の発展に努めていきたい。
- ・また、今日の朝刊でも大きく報じられていたが、令和2年度コンパクトなまちづくり大賞の個別事業部門で、飛鳥乃湯泉、教育研修センター、松山赤十字病院などを含む道後文京地区が、最高位の国土交通大臣賞を受賞することができた。
- ・東雲小学校、東中学校に隣接する愛媛大学には、学校の先生になろうと頑張っている学生たちが多数いる。そういった立地条件もあり、教育研修センターの建設につながった。教育委員長であった金本先生が「ひいき目なしに全国に誇れる素晴らしいところ」と言っていたのを覚えているが、引き続き教育研修センターの活用や情報発信をお願いしたい。

【議題(1) ①学校での新型コロナウイルス感染症対策について】

(野志市長)

- ・今年には新型コロナウイルス感染症の対応で、先生や教育委員会の皆さんは本当に大変な苦労があったと思う。改めて感謝申し上げます。
- ・こうした中、松山市では小学校・中学校の感染防止策はもとより、休業中の学びの保障や教職員の負担軽減などに必要な経費を補正予算などで確保してきた。
- ・9月議会でもスクール・サポート・スタッフの追加配置や学習アシスタントの活動時間の拡充、修学旅行の延期などに伴う経費の支援といった、市独自の取組についても予算を確保した。
- ・また、全国市長会や中核市市長会で子どもの学びの保障や教職員の負担軽減に関する要望も行ってきた。
- ・これから冬場を迎え、感染の再拡大が懸念されており、学校現場での課題や、教職員から寄せられている不安の声などがあれば、早めに備える必要がある。

- ・また、コロナの後を見据えた中・長期的な視点で、国等に要望すべき事項があれば、市長会を通じて提言をしていきたい。
- ・そこで、感染拡大が懸念される中、学校現場での課題や苦勞している点などがあれば教えていただきたい。
- ・また、コロナ後を見据えた中・長期的な視点で、国等に要望すべき事項があれば、ご意見をいただきたい。

(松坂委員)

- ・学校現場には、新型コロナウイルスによる休業の影響がまだまだあると聞いている。休業が突然で、また長期間であったことで、子どもたちの生活習慣の乱れと体力低下が生じた。精神面でも、例年より不安を抱えている児童生徒が見られるということも聞いており、家庭環境に起因した学習面の格差が大きくなっていることなどもあるようだ。
- ・先生方はそれらに対応しながら、子どもたち一人一人をよりよく導こうと努力されているが、子どもたちの心理状況の変化がマスクによって把握しにくく、ちょっとした変化に気づいてあげられているのか、といった声がある。また、補充学習によって学習内容は取りこぼしのないよう進められているが、現在求められているのは、主体的、対話的で深い学びであり、これの実現には様々なハードルがあり苦勞をしている。
- ・それから、家で検温をしてこなかった子どもへの対応や消毒作業などの感染症対策に関する業務は、教育活動支援員の配置により助かっているが、まだまだ時間がとられていて、これまで以上にストレスを感じることも多くなったという声を聞いている。
- ・その一方で、学校の行事はこれまで例年通りになりやすかったが、一から見直すきっかけとなったため、今後の学校行事に生かしていきたいとか、ICTの活用による学習指導充実の必要性をこれまで以上に強く感じ、自分自身努力するようになった、という前向きな意見も聞いている。
- ・さらに、コロナによる一斉休業中に、教育委員会事務局が計画して、いくつかの授業動画を作成して、CATVなどで配信した取組があり、主体的に協力しようと多くの教職員が手を上げてくれた。本市の今後につながる力強いパワーを感じた一例であると思っている。
- ・これからも新型コロナと賢く付き合いながら、学校の不安を軽減し、児童生徒の学びを充実させていくために、私ども教育委員会は、地道な取組・努力を続けていかなければならない。
- ・この場を借りてお礼と要望を伝えたい。まず人的サポート、これは本当に助かっており、ありがたいものであるとどの学校も強く思っており、学習アシスタント、スクール・サポート・スタッフ、教育活動支援員の配置等に配慮と支援をいただいていることに心からお礼申し上げるとともに、今後も支援をお願いできたらと思っている。

- ・そして何より、様々な面できめ細かな指導が必要不可欠となってくる時代を迎えているので、35人学級の完全実施をはじめとして、少人数学級編制の実現を様々な場を通じて国に要望していただきたい。

(一色委員)

- ・今年の春のように全国一斉の長期休業があると、家庭環境の格差がそのまま子どもの教育格差につながってくるのではないかと思う。
- ・今のところ愛媛県でコロナの感染がしばらく出ていないが、北海道や東京のような感染が松山で起こり、学校現場・生徒や両親に感染者が出た場合でも、感染の度合いにもよるが、市内の一斉休業などはできるだけ避けていただきたい。

(野志市長)

- ・先日、今治市で愛媛県市長会議が開催され、GIGAスクール構想に関する議案を松山市から上げたが、やはり要望・声を上げるのはすごく大事なことだと思う。
- ・現場の声を集めて伝えていただきたいと思うし、私も日頃、同級生で教職員になっている者から声を聞きながらやっている。
- ・これからも現場の声は大切にしながらやっていきたいと思っている。

(藤田教育長)

- ・感染防止のために、まず、子どもたちは各学校の先生方が指導する中で、3密を避けるソーシャルディスタンス、手の消毒・マスクなど、感染予防に対する行動が自然となされている。今後も、感染を防ぐための教育が続くことを、子どもたちは認識している。これは子どもたちにとっての役割だと思う。
- ・次に学校の役割は、学習を保障することであり、これは夏休みに補助授業を行い、3学期までには補充ができるように学校も努力をしている。
- ・それと、やはり学校にとって大きいのが学校行事であり、これからまた卒業式がある。今年の卒業式、入学式、修学旅行、そして運動会はこの状況の中、各学校で工夫しながら対応ができたと思うが、これは、修学旅行への援助や先生方の負担軽減のためのスクール・サポート・スタッフの追加配置、そして学習アシスタントの活動時間の拡充など、まさに行政が担うべき仕事としてしっかりと予算立てしているおかげだと思う。
- ・今後も学校は学校の役割、子どもたちは子どもたちの役割、行政は行政の役割をしっかりと地に足を付けて取り組むことを肝に銘じて、たがを緩めることなく、これからも進めていきたいと考えているので、今後も支援をお願いしたい。

(緒方委員)

- ・今年度、新型コロナウイルスの感染の拡大ということで卒業式、入学式、修学旅行等の学校行事が大変厳しい状況になった。
- ・子どもたちが育っていく上で、教室の中で授業を受けるだけでなく、学校行事を

通じて子どもたちが大きく成長する場面がたくさんある。

- ・そして何よりも小学校6年生、中学校3年生の最高学年になった子どもたちにとって最後の思い出になる大事なものだが、今年度なかなか難しい状況の中、学校現場は苦労と工夫をしながら学校行事をやってきた。
- ・地元の小学校の学校日より等で保護者の意見を聞いた中に、運動会が非常に縮小されたが、この縮小した中でよくやってくれた、充実したものであったという意見がたくさんあった。
- ・行事を見直す機会にはなっただと思うが、来年度以降、この学校行事をどうしていくのかということは学校にとって大きな課題であると思う。
- ・行事の縮小について、今年度は保護者の理解が得られた。しかし、来年度以降は縮小したまま行うのか、それとも元の形に戻すのかを考えることはこれから学校にとって非常に大きな課題だと思う。
- ・そういう課題を持って、学校現場は新年度を迎えていくと思うので、市長におかれても学校現場を見ていただきたい。
- ・また、35人学級の実現については今までも要望していたが実現が難しかった。
- ・少し詳しい話になるが、35人学級とするには、小学校では各学年概ね100人、中学校では各学年200人以上という条件がついている。35人学級の実現ということ自体難しいと思うが、35人学級の実現を目指してまた働きかけていただきたい。

(白石委員)

- ・私は元々PTA会長をしていたが、その経験を踏まえ学校訪問すると、素晴らしい学校があり、そのような学校はコロナ禍の状況でも、縦と横の話し合いがよくできていて、問題意識が共有できている。現時点では松山でコロナウイルス感染症がほぼ出ていない状況なので、感染症対策は現状で十分、学校でもやってくれていると思っている。
- ・一番気になるところは、先生や保護者、子どもの不安という気持ちであり、気にかけるべき共通の問題点と思っている。その不安というものを解消するには、やはり話し合いが必要だと思う。
- ・私がPTA会長をしていた時に、入学式のあいさつに一番重きを置いていた。入学式には地域の方、学校の先生方、新入生、保護者が来られるが、特に新入生の保護者というのは様々な家庭の状況がある中で、入学式以外の学校行事には行けなくても入学式だけは来られるということもあり、すごく気をつけて自分がどのように保護者をまとめていきたいのかということ、また子どもたちに対するメッセージも含めて発信してきた。
- ・以前、不安について話した祝辞を紹介する。「お天気の恵まれた今朝、どんな気持ちになったのでしょうか。不安はありますか。不安な気持ちの源は、もしかしたら慣れない環境で独りぼっちになってしまうかもしれないことがあるのかなと想像します。その気持ちだけを大きく膨らませてはいけません。実は不安な人はその不安な気持ちから群れを作り、他の誰かを独りぼっちにさせてしまうこ

ともあるからです。ですが、全く不安がないという人はいません。大切なことは、
ひとりぼっちになってしまった子も、ひとりぼっちにさせてしまった子たちも同時に
助けるには、どうすればいいかと考え動くことです。これは人間だからこそでき
ることです。自分の心にある不安に負けないでください」

- ・このように、みんなが集まるような場所や場面で、不安を解消していくというこ
とが、遠回りなようでコロナ対策にもなるのではないかと思う。

(野志市長)

- ・学校現場での課題や不安、そして具体的な要望を教えてください感謝する。
- ・来年度の予算編成については、平成30年に西日本豪雨があり、当然復旧・復興に
かかる予算が必要で、その目途が立ったと思った令和2年に新型コロナウイルス
感染症が拡大した。現在、松山市のコロナ対策予算は3月補正、6月補正、9
月補正も含めて、現在623億円になっている。
- ・現状、税収入が増えるとは考えにくいため、来年度予算編成は大変厳しいもの
になると思う。しかしながら、将来を担う子どもたちの充実した学校生活、また感
染症対策の徹底等も両立できるよう、必要な予算は確保していきたい。
- ・市長会を通じた要望については、後日改めて調査をさせていただくが、コロナ後
を見据えた中・長期的な視点で、引き続き検討いただきたい。

【議題(1)②GIGAスクール構想について】

(藤田教育長)

- ・国は学校の臨時休業等の緊急時でも、すべての子どもたちの学びを補償できる環
境を早急に実現することを目指しており、当初令和5年までの整備予定だったG
IGAスクール構想の前倒しを打ち出している。
- ・本市では市長に配慮いただき、今年度中にすべての小中学校に1人1台の端末を
整備することとしている。しかしながら、端末等の整備だけで子どもたちの学び
の保障につながるものではなく、各学校現場で積極的な活用を図っていく必要が
ある。そのためにも教職員のICT活用スキルの向上は、欠かせない。
- ・子どもたちの情報活用能力や、教職員のICT対応スキルを向上させること、ま
たICT機器導入に伴う教職員の業務負担の軽減を図るための支援をお願いす
るとともに、財政措置の拡充や継続について、格段のご配慮をいただきたい。
- ・ここで少し時間をいただき、GIGAスクール構想の今までの流れと松山市の現
状を教育研修センター事務局長から説明させていただきたい。

(教育研修センター事務所・越智所長)

- ・まずGIGAスクール構想の背景について、情報通信技術の急激な進化や、技術
革新により、すべてのものがつながり、様々な知識や情報が共有される超スマー
ト社会、Society5.0の到来が予想されている。
- ・一方で、日本の教育におけるICT活用は、OECD加盟国の中で最も低い水準

であることが明らかになった。

- 2012年に行われた国際的な学力調査では34ヶ国中1位であった読解力の平均が、2015年には35か国中6位、2018年には37か国中11位と低下したのも、2015年以降、コンピューター使用型調査になったことが原因の一つという指摘がある。
- こうした中、国は今回の学習指導要領で、情報活用能力を言語能力と同様に、学習の基盤となる資質能力と位置付け、学校のICT環境整備とICTを活用した学習活動の充実を求めている。
- これと連動して、2017年12月には学校におけるICT環境整備方針を公表し、学習者用コンピューターを3クラスに1クラス分程度整備することや、ICT支援員を4校に1人配置することなどが示された。
- さらに2019年12月にGIGAスクール構想を打ち出し、高速大容量の校内通信ネットワークを2020年度中に、また、児童生徒1人1台端末を2023年度まで順次整備することが示された。
- そして、この4月には、新型コロナウイルス感染症対策として全国的な臨時休業が続く中、GIGAスクール構想の加速による学びの保障として、1人1台端末の早期実現、障がいのある児童生徒のための入出力支援装置整備のほか、家庭でもつながる通信環境の整備を行い、災害や感染症の発生等による学校の臨時休業等の緊急時においても、ICTの活用によりすべての子どもたちの学びを保障できる環境を早期に実現することが示された。
- なお、10月の中央教育審議会答申の中間まとめで、令和の日本型学校教育の構築に向けた今後の方向性が示され、これまでの教育実践とICTとの最適な組み合わせを実現することが明記されたが、このことから明らかなように、単にICT機器を指導に取り入れれば情報活用能力が育成されたり、教科等の指導が充実したりするわけではなく、1人1台端末の環境を生かし、これまでの教育実践とICTのベストミックスを図りながら、授業改善につなげていくことが求められている。
- 本市では、GIGAスクール構想を推進するため、GIGAスクール構想推進委員会を立ち上げ、関係課及び関係機関が協力する体制を整え、まず本市のGIGAスクール構想基本方針を定めた。
- 取組姿勢としては、いかす・ひらく・つなぐをキーワードに自ら問いを立て、その解決に向けて挑み続ける学びを求めて、これまでに蓄積してきた教育実践と、最先端ICTのベストミックスを図っていく。
- また、ICT活用による教科等の学びの充実、情報活用能力の育成、ICT活用による特別支援教育の推進、教職員のICTスキルの向上、ICT環境の整備の五つを取組方針とし、これに基づいて、五つの専門部会を設け、現在、具体的な取組を進めている。

(一色委員)

- ・松山の教育で国語や算数、数学は全国トップレベルということが学力調査でわかっているが、英語教育とICT教育はそれに比べて劣っているので、松山の教育は英語教育とICT教育に力点を置く必要があると思う。
- ・GIGAスクール構想は政府でも力を入れているので、松山市も他の都市に遅れを取らないように力を入れていく必要があると思う。
- ・そこで、先ほど教育研修センター事務局長から説明があった取組方針5項目の中で「教職員のICTスキルの向上」が重要になる。子どもたちに教えるためにはまず先生方がその能力を磨いていかないと人に分かりやすく教えるということは難しいと思うので、教職員のICTスキルの向上に力を入れていただきたい。

(松坂委員)

- ・ICT教育が課題であるというのは、これまでの全国学力・学習状況調査でICTを使った授業を受けている割合が少なかったところにあると思う。
- ・先生方がパソコンと電子黒板をつないで授業をしている様子はごくごく普通にとの学校でも目にする状況になっている。
- ・今年度訪問した小学校の中には、5年生の社会科の授業で、個々の児童が調べたことをタブレットパソコンにプレゼン形式でまとめていき、それを使って2人組で自分が調べたことを伝え合ったり、みんなで確認し合ったりする学習があった。
- ・北条地区は人数の関係からパソコンを1人1台持たせることができるという状況にあったので、1人1台のタブレットパソコンが配布されれば、このような取組が松山市の他の学校でも、進んでいくのではないかと思う。
- ・小学1年生でも、算数で一人一人の児童がタブレットパソコンを持って、計算ドリルをしている場面を目にすることもできた。
- ・1学年1学級という小規模の二つの学校が、それぞれが同じ時間帯に、同じ題材で道徳の授業を行い、後半、それぞれの学級で出た意見を、ICTを使って交換するという学習風景も見られた。普段は7、8人の固定化された少人数の中で話し合いをしているが、多様な意見に少しでも触れることができるように、学習が深まることができるようにという先生方の熱意で実現した授業だったのではないかと思っている。
- ・先ほど紹介した学校では例年、少年自然の家や修学旅行といった宿泊を伴う学校行事を合同で実施しており、各学校が集合して事前学習を行っている。しかし今年はコロナの影響もあるので集合はせず、Zoomミーティングで話し合いを行ったということで、これが契機となり先ほどの道徳授業に発展したということだった。
- ・このようなことが実現できている地区もあるということで、ICT機器の充実という物理的な側面と、ICT対応スキルを十分に持っている教職員、その両面がこれから必要不可欠だと思っている。
- ・昨年度は小学校、今年度は中学校の教科書採択ということで、この2年間、時間をかけて教科書とじっくりと向き合ってきたが、これまでの教科書にはなかった

QRコードが付いていたことに驚いた。QRコードにつなぐと、教材を書いた筆者のインタビューや学習内容を理解するための動画、アニメーション、スライドショーなどを見ることができたり、ネイティブの英語が聞けたり、フラッシュカードが出てきて練習問題に取り組めたり、外部サイトに容易にリンクすることができたりと、教科書に記載されている内容に加えて、学習を広げたり、深めたりすることが容易にできるような教科書になっていると感じた。今後はデジタル教科書も順次発行されていくと思うが、その活用も目の前まで来ているとの思いも持った。

- ・市内のどの学校にも、今回訪問したような学校で取り組まれていたようなことが今後少しずつ広がっていくために物理的な側面が必要となるが、今年度はGIGAスクール構想の勢いがあるけれども、これに財政的な継続性があるのかどうかは心配である。今後の継続性が大変重要だと思っている。
- ・当面は支援員などの英知を借りながらICT対応スキルを持った教職員を育てることが松山市の学校のレベルを高めるために必要ではないかと思う。

(緒方委員)

- ・以前、松山市は学校現場に大型テレビを全学校全学級に入れていただき、これまで非常に有効に使われてきたと思う。
- ・パソコン教室のタブレットパソコンでは、慣れている子どもはどんどん進むが、慣れてない子どもはそこで立ちどまってしまうので、1人に1台タブレットパソコンが手の届くところであれば、随分子どもたちのパソコンに対する取り組み方も違うのではないか。
- ・それと、インターネットに接続する環境があまり整っておらず、授業中にインターネットが固まってしまう場面があったが、高速大容量のネット環境が整うということで、ICTの教育が大きく進むのではないかと期待感を持っている。
- ・外部の力も必要だと思うので、ICT支援員の配置についてもぜひ支援をいただきたいと思っている。

(白石委員)

- ・ICT教育について、保護者の中には1人1台の端末が手に届くということを知らない方もいて、知っている方の中でも、教科書は置いておいて、ランドセルの中にタブレットだけを入れて登下校できるとか、タブレットを使うことで料金が発生するとか思っている保護者もいて、これからどうなるかということが保護者に届いていない現状がある。
- ・著作権の問題で教科書はタブレットに映してはいけないということもあると伺ったので、保護者の多くが描いているような状況にはならないと思う。
- ・GIGAスクール構想で1人1台端末になり、どういうふうに端末と向き合うのかということ、保護者にも地域の方にも知っていただくことが必要ではないか。ICTを導入しただけではなく、それをどうやって活用し続けていくのか、どう

やって進めていくのかという問題が問われてくるようになると思う。

- ・これだけ先生の業務が増えてきて、外国語もタブレットの教育もしなければならぬ中、子どもにしっかりと目が届くことを考えると、やはり35人学級が現実的にはやりやすいのではないかと思っている。

(藤田教育長)

- ・臨時休業中に小中学生全学年の学習支援動画を34本製作し、YouTubeで配信した。悔しいことに双方向ではなく一方通行ではあったが、我々に今できることということで、CATVでの放送やDVDの配布など、全ての児童生徒に行き渡らせるように実施した。すると7月末で約68,500回の視聴があったが、こういう取組があったのは全国で約10%しかなかった。全国から見てもこの取組は高く評価され、何よりも保護者から肯定的な意見が多く寄せられた。
- ・動画の製作にあたっては、100人もの現場の先生方から手が挙がるなど、改めて松山の教師力の高さを見直したところである。
- ・GIGAスクール構想のハード整備は行政がやらなければならないが、そこへ魂を入れるのは教職員である。その気持ちを持ってICT活用スキルを向上できるよう、教育研修センターでは、全教職員が12月末までにスキルアップ研修を受講し、スキルの向上に努める。
- ・これは英語にも言えることで、ALT(外国語指導助手)と学習アシスタントも増員した。教職員にも得意な分野と不得意な分野があると思うが、教育というものをまたしっかり受けとめてスキルアップに努めていただきたいし、そのための環境整備は行政の役割だと思うのでご支援いただきたい。

(野志市長)

- ・国を挙げてのGIGAスクール構想だが、今後、国の動向を注視しながら市長会としても必要な要望を行っていききたい。
- ・また教職員の負担軽減を図るとともに、学校でのICT機器の積極的な活用につながるよう、ICT支援員の配置も含めて必要な支援を行っていききたい。
- ・本日は、教育委員の方々とこのように議論することができて、とても有意義な会になった。今後とも教育委員の皆様と連携を密にしていききたい。

【閉会あいさつ】

(藤田教育長)

- ・新型コロナウイルスの感染拡大によって、これまでの生活が一変した。学校の教育活動を行うこと自体が、当たり前ではなくなっている。こうした中、各学校では健康観察の徹底、換気・座席の配置、そして学習形態の工夫、毎日の消毒等による感染防止に努めながら、教育活動の平常化に向け、日々努力をしている。
- ・命を守る闘い、そして人権を守る闘いは今後も続くと思う。

- ・大変先行き不透明な状況の中ではあるが、教育委員会として今何をすべきか、今何ができるのかを常に考えながら、現状を適切に把握し、判断しながら対応していきたいと考えているため、引き続き支援をお願いしたい。

【閉会】